

オーバーラップ

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

発生分化機能再建学講座

小児顎口腔発達管理学分野 細 矢 由美子

もう20年も経ってしまったのですねー。

20年というと日本人の平均寿命の約1/4ではないですか。人生の1/4を九州の地で会員の皆様と楽しく過ごせたと言うべきか、はたまた浪費してしまったと言うべきか、想いは複雑です。

日本小児歯科学会九州地方会は、私が長崎大学に赴任して参りました年に設立されましたので、長崎大学での想い出とついついオーバーラップしてしまう所がございます。

第一回大会は、福岡歯科大学の先生達による手作りの学会でした。以来、九州地方会に参加する度に、福岡歯科大学小児歯科の伝統である暖かい心遣いに触れる楽しみを、甘受させていただいております。鹿児島大学が担当の時は、いつも僻地に隔離され、おかしかったですね。特に指宿に監禁されての大宴会は、大会史上に残る迫力物でしたね。また、恒例のソフトボール大会と演芸大会は、会員の運動神経と芸術（？？）性が試される場でもありましたが、毎回懲りずに以外なスターが誕生し、珍プレーや珍芸に悩まされたのが実に愉快でした。学会発表以外の場でも多くの方々と知り合う事が出来、ずっとおつき合いさせていただいておりますが、これまた“素晴らしいー!!”の一言です。

社会でも大学でも、物事を数値に置き換えた結果論が優先し、“おおらかさ”を堪能できるセンスと余裕が無くなっています。人生を通して偏差値に支配される受験生みたいになってしまっては、医療の本質は成り立ちません。九州の地で九州の人々が作りあげてきた良き伝統と感性とを、九州地方会の場でも存分に生かしていただきたいと願っております。

地方会20周年に寄せて

鹿児島市開業 堀 川 清 一

今、手元に一冊の古びた冊子がある。わずか13ページのその表紙には「日本小児歯科学会九州地方会・設立総会及び第一回学会」と記されている。当時鹿児島大学の医局に在籍していた私は、同僚の車で、途中生駒高原のコスモス畑に寄り、まだ完全開通していなかった九州自動車道を北上して学会に参加した。地方会らしくアットホームな学会は、同時に先取の気運を持ったアカデミックでかつ熱気にはらんだものであった。担当講座であった福歯大の吉田穰教授(当時)が、一般講演に対する質問の中でリコールの重要性を力説された事は今でも鮮明に覚えている。ちなみにその時の準備委員長が、現本川渉教授であった。学会翌日の親睦ソフトボールは、それからしばらくの間、恒例のものとなっていましたこともよい想い出となっている。また懇親会では、第4回の鹿児島大学